
何処にも行かないで

封弥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

何処にも行かないで

【Nコード】

N0840D

【作者名】

封弥

【あらすじ】

気休めしたら？と言う蘭の提案にOKをした新一。そこで、半年ぶりのトロピカルランドに。しかし、また新一に事件の解決を求める電話がかかってくる。其れを見て蘭はもう嫌だと新一の前を去り、家にまで来てしまう。家の自分の部屋で泣いているとき、前に両親の元へ帰るといったコナンから電話がかかってきて、蘭は慰められて…

（前書き）

コナンが登場しますが、勿論新一がコナンの声で蘭に向かって喋ってるだけです<>

勘違いはなさらないようにお願いします。

もう…事件事件って…。

東の名探偵って言われるぐらいだから仕方がないかもしれないけれど…。

何処にも行つてほしくない。

ずっとこの場所にいて、と言いたい。

でも、事件があつたときは大抵携帯で、来てくれと呼び出しを食らう。

そんな姿を嫌と言うほど見てきた。

もう…新一が居なくなるなんて…嫌だから。

「らーん！早くしろ！」

「う…うん！すぐ行くから！」

私と新一は、今日トロピカルランドへ行くことに。

気休めでもしたら？と言う私の提案に新一がOKを出したから。

「トロピカルランド行くの久しぶりよね」

「ああ…半年ぐらい行つてなかったもんな」

つい最近、やっと新一が戻ってきてくれた。

でも…コナン君はもう居ない。

親の所へ帰ると言つて、私の前から忽然と姿を消した。

新一と凄く似てて…私をずっと守つてくれた、小学一年生のコナン君。

また…「蘭姉ちゃん」と呼ばれたい。

「…蘭？」

「えっ！？なっ…何！？」

「いや…なんか悩んでるのか、って思ってたよ」

「ううん。コナン君がいた頃を思い出して」

「あんまり悩むとお前、どんどん落ち込んでいくぞ？今日はトロピカルランドでパーツと行こうぜ！」

「うん！」

そう言っ、新一は私の手を握り、走っていく。

ずっと高くなつた背丈、広くなつた背中。

たまらなく愛しくて…。

トロピカルランドでは、吃驚するぐらいはしゃいでいた。
新一も仕方なし、といった感じに付き合ってくれた。

「蘭。次、何処行く…あ」

「また…？」

「ああ。警察からだな」

新一は電話を取り、受話器に向かって喋ろうとした。
そのとき、私は何故か新一の携帯を握った。

何処にも行かないで、と言うその心が行動に出たのだ。

「蘭？…放せよ」

「嫌！何処にも行かないでっ…！」

「…無理だな。解決したら戻ってくるから」

「何時も其ればっかり！！もう知らない！」

「蘭！！！！」

私は新一を背に走り出す。

もう…事件事件って言うのを聞くのが嫌になってきた。
いつもなら『頑張ってるね』と笑顔で送り出せたはず。
なのに…なのに。

自分の家まで来てしまった。

今頃…事件を解いて居るんだろうな、新一。

自分の部屋に入って、そのまま泣き崩れる。

「どうして…『頑張ってるね』って…送り…出せなかったの？」

そのとき、自分の携帯が鳴り出す。

「え！？コナン君!？」

少々吃驚しつつ、もしもしと応答する。

『蘭姉ちゃん、久しぶり！元気してる？』

「うん…元気…だよっ」

『蘭姉ちゃん…泣いてる？』

「え？ううん…泣いてないよ」

『新一兄ちゃん。また事件？』

「う…うん！そうだよ」

『新一兄ちゃんは必ず、帰ってくるよ。蘭姉ちゃんのこと、一番好きだって大分前、言ってたから。絶対に帰ってくるから』

「コナン君…そうだよ。帰ってくるよね」

『うん！だから頑張ってるね！僕も、アメリカで頑張ってるから！蘭姉ちゃんのこと…見守ってるからね!』

「有難う、コナン君！じゃね」
『うんバイバイ！』

そう言つて、電話は切られる。

なんか、慰められちゃった。

そうだよね…新一は、帰ってくるよね。
なんで、あんなに切れたんだろう。

新一が帰ってくるって事は知ってたのに…。

そのとき、下でインターホンが鳴る。

まさか…

階段を駆け下りて、扉を開ける。

「し…新一」

「やっぱり…此処だったか。御免な…警部に頼んで、事件パスさせて貰った」

「そんな！行ってきたら良かったのに…だいたい、私だってあんなにキレて…新一困らせて」

「いいや…良いんだ。コナンから聞いたんだ。『蘭姉ちゃん、泣いてるよ』って」

「コナン…君から？」

「ああ…でも、本当に御免。俺…どうしようかって、迷ってたけど、お前が止めてくれたから…今、こうしてお前の目の前にいる」

「何処にも…行かない？」

「ああ…絶対に行かないさ。あ、そうだ。こうすればどうだ？もしも事件があつたとき、蘭を連れて行く。それなら一緒だろ？」

「…良いけど、危険な目には遭わせないでよね」

「大丈夫だ。俺が守ってやるから」

「…頼んだわよ。東の名探偵さん？」

「わーっ
たよ」

何処にも行かないで、と言っ
のは絶対に無理なことだ
けど、傍にいてくれたら其
れで良いよ？新一。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0840d/>

何処にも行かないで

2010年12月1日07時06分発行